

# 憲法九条の会・岩岡 ニュース 第80号

2014・5・16発行

発行人 堀口照美／編集人 白井篤子

「憲法9条の会・岩岡」7周年記念行事（4月13日（日）ペレーネホール）で行われた松竹伸幸さん（ジャーナリスト）の講演の後半（要旨）を掲載します。

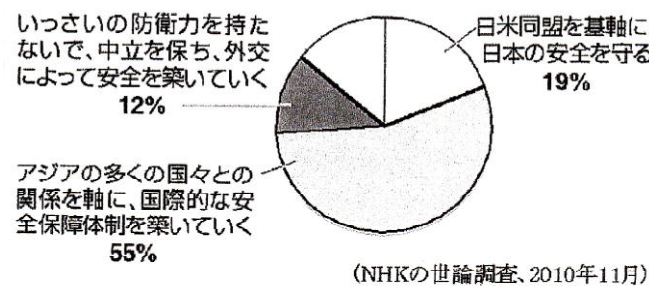
## 憲法九条と軍事戦略は両立するか（2）



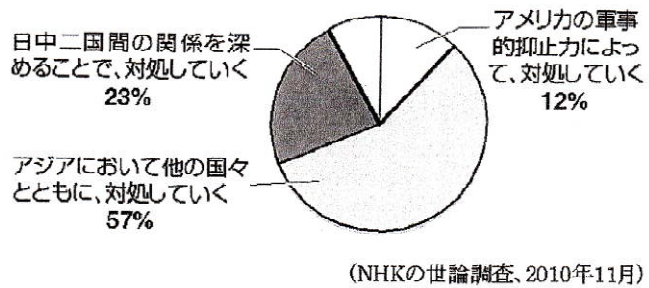
### NHKの世論調査に見る国民の気持ち

下の資料を見て下さい。「これからの安全保障体制」は、「日米同盟を基軸に」が19%、「いっさいの防衛力を持たない」は12%。国民の多数（55%）は、防衛力を持たないという考え方には与しないが、しかしアジアの国々とは外交的な関係を築いて平和を守っていく、要するに自衛隊を保持しつつ外交でやっていくという考えです。「中国の動きへの対応」も、国民は憲法9条を支持していて、集団的自衛権はダメだと、外交でやっていこうと思っている。だから我々はそういう国民の気持ちに合致した物の考え方、訴えをしていくことが必要だと思います。我々が目標としている軍事力のない世界、自衛隊のない日本を考えてみた場合にもやはりその前段階として軍事戦略がどうしても必要です。なぜかと言えば、今護憲派で防衛戦略とか軍事戦略とかを口にする人はあまりいません。国民の多くの皆さんは抑止とか戦争とかはイヤなんだけれども、やはり自衛隊は保持したいと思っている。そういうことを言っているのは安倍さんの側だけという状況になっているので、選挙でどこに投票するかということになれば仕方なく安倍さんと。軍事戦略、防衛戦略の選択肢がない状況なんです。しかしそうやって安倍さんに投票してみたら、その戦略は非常に挑発的で、アジアの緊張がどんどん深まっていく。それは危ないから軍事力を強化しなければならない、アメリカに頼るしかない、となっていかにざるを得ない。そういう現実がある。この現実を変えなければならない。

### 「これからの安全保障体制」



### 「中国の動きへの対応」



### 憲法9条を持つ日本の軍事戦略

9条を完全実施して自衛隊の必要のない世界、日本にしていこうと思えば、護憲派が防衛戦略をもって、中国との関係、北朝鮮との関係で、国民の多数の気持ちを背景に、自衛隊は持つけれども、自衛隊の活用は相手国を挑発するのではなくて、もちろん日本が侵略されるようなことがあれば阻止しなければなりません。こちらから出かけて行って相手を挑発するとか、相手の国を滅ぼすような軍事戦略をもってそういう兵器を導入するとかそういうものであってはならない、別の軍事戦略、お互いがお互いを必要とするような相手国と協調していける戦略が必要です。例えば、南シナ海の海賊に対して中国と日本の海上保安庁が共同して対処する。アメリカはリムパック（環太平洋合同演習）に中国軍を招いて、中国軍のヘリがアメリカの軍艦に着艦するというところまでやっており、どうやって新しい戦略を構築すべきかということが問題になっている。安倍政権にはそういう戦略がなく、中国を挑発している。

### 「21世紀の憲法と防衛を考える会」

6月7日に、冒頭に「自衛隊を活かす」と入れているんですが、「21世紀の憲法と防衛を考える会」を作ろうと思っています。3人の呼びかけ人の代表が柳沢協二さん。安倍首相に異議を唱えている柳沢さんは、小泉首相がイラクに自衛隊を派遣した時、自衛隊を統括した内閣官房副長官補。幕僚長、陸相、大佐クラスの方々に集まっていたいてシンポジウムを開き、憲法9条のもとで自衛隊を活用するあり方を議論して提言をすることになっています。かもがわ出版に入って8年間、そういう方向が可能なんだということを確認してきました。



柳沢協二さん

### 『我、自衛隊を愛す 故に、憲法9条を守る』



7年前にかもがわ出版で最初に出したのが『我、自衛隊を愛す 故に、憲法9条を守る』という本です。書いていただいた方は防衛省の元幹部の方ばかりです。防衛政務次官だった箕輪登さんは、もう自民党代議士をやめて奥さんと小樽に住んでおられたのですが、自衛隊のイラク派遣を知ってビックリして、自分がこれまで慈しんできた自衛隊員、日本を守るために入隊して、毎日の訓練に耐えてきた自衛隊員が海外で命を奪われる、そんなことは許されないと、自衛隊のイラク派遣は憲法違反だという訴訟をやって、原告団長になった方です。裁判の途中で亡くなりましたが、いろんな方が結集して裁判をやったのですが、その後全国

の10以上の裁判所で提訴され、ご承知のように名古屋では、イラクでの空輸が憲法違反であると認定されました。箕輪さんをはじめ防衛省の教育訓練局長だった方、官房長をやっておられた方に、こういうタイトルで本を出したいとお願いしますと、皆二つ返事で引き受けて下さった。この時皆さんがおっしゃったのが「憲法9条は本当に我々にとって大事なんだ」ということでした。自衛隊を愛すということと憲法9条を守るという気持ちは本当に彼らにとってみれば同じだったわけですね。それでその本を出しまして大変評判になりました。本の帯を元防衛庁長官の加藤紘一さんをお願いすると、「非常に賛成だ。本当に日本のことを思う3人の防衛省の元高官の気持ちに打たれた。自分は将来的には9条を変えるという立場だけれども、今日本がどんどん右に傾いていく状況下では9条は守らなければならないと思う」と言って下さり、とてもいい帯ができました。さらにこの本を自衛隊の中に広めたいと思い、自衛隊の準機関紙「朝雲」（20数万部）の広告局をお願いをしましたら、一か月ほどしてOKの返事があり、「朝雲」の一面に広告が載ることになりました。自衛隊員の方から、かもがわ出版にだいぶん電話があり、退職の餞別のお返しにしたいと100冊注文してくれた方もありました。自衛官の中にもそういう気持ちがあるんだということがわかりました。

### 『自衛隊の国際貢献は憲法9条で』

次に考えなければならないと思ったのが国際貢献です。我々は軍事的な国際貢献ではなくて、民間レベルのあるいは外交での貢献は進めていかなければならないと思いますけれども、自衛隊の国際貢献を一切否定すべきかどうか、これもなかなか難しい問題としてあると思ったんですね。それで「21世紀の憲法と防衛を考える会」の呼びかけ人の一人で、今東京外大で平和構築学を教えている伊勢崎賢治さんにこの本を書いてもらいました。私が知り合った時は、国連平和維持軍（PKO）の武装解除部長でした。アフリカのシエラレオネは、人口が四百数十万の小さい国ですが、90年代の10年間内戦があり、5万人から最大40万人が命を失いました。政府軍が2万5千、ゲリラが2万5千、皆自動小銃カラシニコフを持って戦った。最初に少年兵が生まれたのもシエラレオネの内戦でした。カラシニコフは軽くて子供でも扱えるので、世界中に6億丁あるといわれます。シエラレオネで戦争を終わらせるために、政府軍からも反政府軍からもカラシニコフをすべて回収しなければならない。国連から平和維持軍（PKO）が送られましたが、その中心任務の武装解除を行ったのが伊勢崎さんでした。農地や農機具を与え、職業訓練校に入ることを勧め、それと引き換えに武器を回収するのですが、彼はそれを短期間でやり遂げ、国連では大きな成功物語になっています。

9. 11後、日本政府は伊勢崎さんを政府代表としてアフガニスタンに送り込みましたが、アフガ



伊勢崎賢治さん

ニスタンでも武装解除に成功しました。伊勢崎さんはシエラレオネで活動していた時は改憲派でした。自分は丸腰だけでも、周りを武装した国連平和維持軍が守ってくれているからできる、日本の自衛隊も国連平和維持軍として来てほしい、それが9条のためにできないのであれば9条を変えるべきと思っていた。しかしアフガニスタンで新しい経験をして考えが変わった。アフガニスタンはシエラレオネよりはるかに難しい。シエラレオネは自動小銃だけで戦い、10年の内戦だったが、アフガニスタンは軍閥が何世紀も戦い、戦車も大砲もミサイル砲もある、生まれてこの方戦士だという人から武器を回収するのである。アフガニスタンの軍閥は日本人のいうことなら信用しようと武器を差し出した。彼らは憲法9条のことなど知らないわけですが、戦後半世紀以上、日本が戦争をしない、海外に軍隊を送らない、人を殺さないという日本のブランドのイメージが世界に知られていて、武器を差し出せば自分たちも日本のように経済的に繁栄するかもしれないと思ったからだ、と。それ以来護憲派になって、9条の会にも出てきているいろいろ発言するようになったわけです。自衛隊は非武装、丸腰で、停戦監視のために派遣すべきというのが彼の立場です。今シリアが非常に大きな危機に陥っていますが、去年の春、450人の国連平和維持軍（PKO）の停戦監視団がシリアに派遣されました。内戦で戦っている政府軍、反政府軍双方に発砲をやめろと説得するんです。丸腰で説得するという非常に難しい仕事です。シリアの場合成功しませんでした。この停戦監視団の団長はノルウェーの軍人でしたが、かつては北欧3国はPKOの中で中立たと受け入れられていたんですが、アフガニスタンでNATO軍が掃討作戦をやってノルウェーもアフガニスタンで人々を殺傷する行為をやっています。そういう国が中立的とシリアの人々に見られるということはありません。でも伊勢崎さんに言わせれば、日本は海外で誰も人を殺していない、イスラム教国でもキリスト教国でもない、日本人だったら成功しただろうと。自衛隊が非武装、丸腰で、本当にその国の平和を確立するために派遣されることが求められることがあると考えて、この本を作ったわけです。この本も「朝雲」に広告を出しました。「朝雲」の広告局の方が自衛隊の駐屯地にある書店のリストをくれて、今後こういう種類の本は直接書店と連絡をとって、そこに置いてもらえるように努力してほしいと言われたのです。

## 『抑止力を問う』

次にお付き合いしたのが柳沢協二さんです。柳沢さんは小泉さんに呼ばれてイラクの自衛隊を統括するという仕事をされました。その後、安倍、福田、麻生と4代の首相に仕えて定年退職されました。当時は私にとっては敵だったんです。ところがその後民主党の鳩山内閣ができて、鳩山さんが抑止力の問題で迷走しますが、柳沢さんがそれに非常に怒って朝日新聞に長い論考を書かれました。「沖縄に海兵隊はいらない」という堂々たる論考でした。イラクの自衛隊を統括した人がこういう考え方を持っていたのかとビックリして、柳沢さんにお会いして、書いていただいたのが『抑止力を問う』という本です。防衛問題の専門家6人の対話で成り立っている本です。

## おわりに—9条の共闘は「新しい質的な広がり」（渡辺治）

この本の中でテロ問題の権威である加藤朗さんは「ここまで来たら護憲派は憲法9条の軍事戦略を作らなければならない。いつまでも9条といえど自衛隊は否定して防衛政策は何もないというのでは通用しない」と提起して、柳沢さんが「それはすごくいね」といふところまで9条の軍事戦略の必要性を護憲派に問うていったという経過があります。去年の11月に、9条の会の全国交流会がありました。そこで初めて柳沢さんは9条の会の場に出て、集団的自衛権の問題で討論されました。渡辺治さんが閉会の挨拶で、9条の共闘を「新しい質的な広がり」だとおっしゃいましたが、9条の下でも軍事戦略、防衛戦略はあるんだということをめざすということ、自衛隊があるのは当然と思っている人たちに、自衛隊を認めるといふことと憲法9条を守るということは一つのものとしてOKなんだよと訴えていけるという点で私は意味あることだと思うんです。しかも同時に先ほど安倍政権に代わる政権といいましたけれども、それを作ろうと思えば「防衛政策はどうするんですか」ということは問われるんです。安倍さんの集団的自衛権反対だけでは、国民多数が望む安倍政権に代わる新しい政権とはならない。別に新しい政権のために作っているわけではありませんが、しかし護憲の軍事戦略があるということになれば、それは新しい局面を切り開くことができるはずなんです。で、実際、賛同される方、賛同する政党の広がる可能性はあります。安倍さんの暴走する路線に対して、新しい憲法9条の軍事戦略で対抗する流れを世論のレベルでも政治のレベルにもしていく可能性があるんだと思います。

いろいろなバリエーションがありますけれども、自分の立場はお互いに変えないけれども、しかし9条を守るためには協力しあおうという気持ちをお互い持つようになったらいいなと思います。同時にもし安倍さんを倒して護憲の政権を作って、平和外交をやって9条を実現していくということを考えれば、そういう政策や政権の問題もこの次のこととして視野に入れておかなければならないということは、ぜひこれまで護憲運動を担ってきた方々にも考えていただきたいと思います。難しい話だったかもしれませんがそのことを訴えまして私の話とさせていただきます。（拍手）  
（文責・白井篤子）

## 講演の感想 アンケート34通（参加者103人）

- よかった 14
    - 憲法9条と自衛隊の存在は対立するものとは捉えず、頭からただ否定してしまっていたが、今日の講演で、もっとしっかりいろんなことを見て、考えなくてはいけないと思いました。松竹伸幸さんの本も購入して読みます！（女60代）
    - わかりやすく解説していただき、面白く貴重な時間でした。世界の情勢から、憲法の尊さ、不戦の国日本の役割を知り感動しました。（女50代）
    - 現実と噛み合う運動に大変興味深かったです。自分の考えの整理、再考に役立ちそうです。
    - いろいろな立場の人々も、9条は守らねば、と思っている人が多いことがわかり驚きました。（女60代）
  - わかりやすかった 10
    - 自衛隊の活用という考え方に接したのは初めてで少し混乱している。9条によって自衛隊員の生命が守られているのは事実であるが…。自衛隊を軍とすることは、抑止力を発揮していきたい。
    - こんな会があることを今日知りました。小さな声が国を動かすことができるように（女60代）なるといいですね。頑張ってください。（女70代）
    - 今日のお話は、はじめての視野の域が広がりました。参考にします。（女70代）
    - もっと詳しく知りたいと思いました。（女50代）
  - まあまあ 3
    - 学生時代から憲法9条については学校で感想等を書くことがあったが、講演会には初めて参加しました。難しい問題だなあと感じ、未来についてもっと深く考えたいと思いました。有難うございました。（女60代）
    - 私は軍事反対、平和主義のつもりです。ウクライナの紛争（民族、領土など）、実態、解決の仕方を興味を持って見ております。安倍暴走政権に対抗できる民主勢力を作り出すため、行動、あり方を一層国民に訴えて下さい。（男70代）
    - 内容は非常に示唆に富んでいましたが、惜しむらくは「しゃべり」がご専門でないようで、少し理解するのに苦労しました。（男50代）
  - 難しかった 5
    - 具体的に何をすればよいのでしょうか（9条を守るために、現在の解釈上で）。（女60代）
- その他、質問の時間を設けるべきだった（2）、広報をもっと広くしてほしい、携帯電話を止めることや私語の注意を、というご意見がありました。

## 「憲法9条をノーベル平和賞に推す神戸の会」の署名にご協力下さい

「ノルウェー・オスロの委員会にノミネート案を1月31日に発信。4月9日、「憲法9条をノーベル平和賞に推す神戸の会」に受理の返事を下さいました。日本国民に、憲法9条の価値を認識してもらいましょう」と記された署名用紙が届きました。憲法9条がノーベル平和賞を受賞したら、日本はもちろん世界中に大きな影響を与えます。私たちも周りの人に訴えてできるだけ多くの署名を集めて「神戸の会」に届けたいと思います。お近くの世話人にお届け下さるか、事務局まで郵送して下さい（82円はカンパして下さい）。なお、7周年記念行事の際、資料に同封した署名がまだお手元にありましたら一緒にお届け下さい（郵送含め15筆届いています）。よろしく申し上げます。

**第78回世話人会** と き：2014年5月17日（土）13：30～15：30  
ところ：岩岡連絡所多目的ホール（小）

7周年記念行事の総括と次回の催しについて考えます。どなたでもご参加下さい。